



# 飛行点検隊

**FLIGHT CHECK GROUP**

防衛省 航空自衛隊 航空支援集団

**AIR SUPPORT COMMAND**

JAPAN AIR SELF DEFENSE FORCE  
M.o.D

## 【飛行点検隊とは】



全国の自衛隊基地には、航空機が昼夜及び悪天候を問わず安全に飛行するために、電波等を利用した「航空保安無線施設等」が設置されています。

飛行点検隊は、この施設の信頼性を常に確保するため、点検用計測機器を搭載した航空機を使用して実際に飛行し、定期的に電波の発信状況や精度等を計測して確認している防衛省、陸海空自衛隊唯一の部隊です。



**PAR**  
(精測進入レーダー)

(Precision Approach Radar)



**ASR**  
(飛行場監視レーダー)

(Airport Surveillance Radar)



**TACAN**  
(戦術航法装置)

(Tactical Air Navigation)



**TCOM**  
(通信施設)

(Terminal Communications)

**I L S** (計器着陸装置)

(Instrument Landing System)



**PAPI** (進入角指示灯)

(Precision Approach Path Indicator)



**VOR**  
(超短波全方向式無線標識)

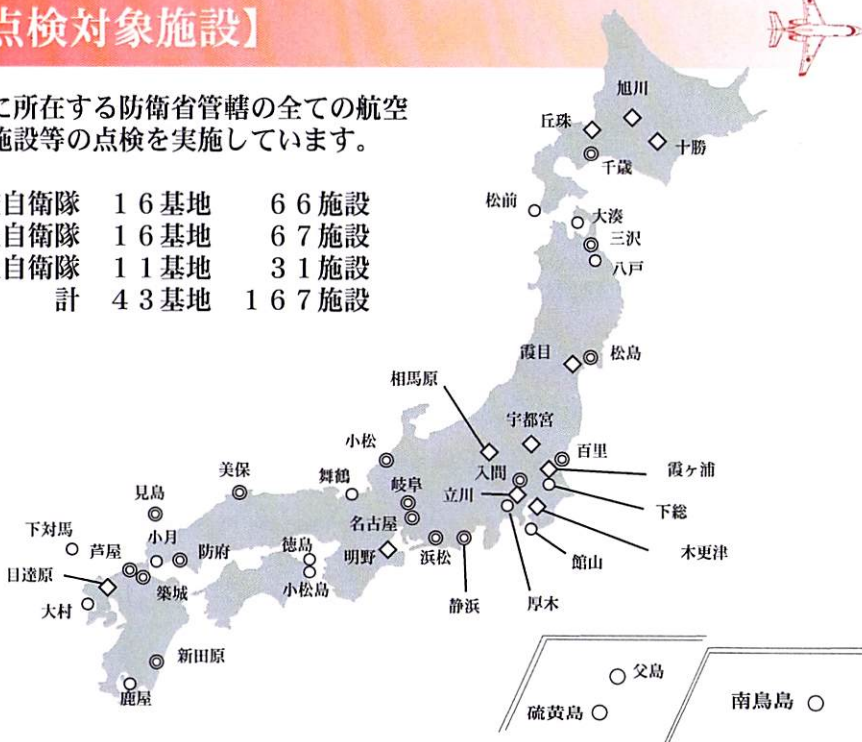
(VHF Omni-directional radio Range)

## 【飛行点検対象施設】



全国各地に所在する防衛省管轄の全ての航空保安無線施設等の点検を実施しています。

◎	航空自衛隊	16基地	66施設
○	海上自衛隊	16基地	67施設
◇	陸上自衛隊	11基地	31施設
	計	43基地	167施設



## 【飛行点検機】



U-125	
全長	15.6m
全幅	15.7m
全高	5.3m
最大離陸重量	約13t
巡航速度	約860km/h
最大運用高度	43,000ft
航続距離	4,000km
最大搭乗人数	7名
搭載点検用機器	AFIS-310



U-680A	
全長	19.0m
全幅	22.1m
全高	6.4m
最大離陸重量	約14t
巡航速度	約830km/h
最大運用高度	45,000ft
航続距離	5,000km
最大搭乗人数	8名
搭載点検用機器	UNIFIS-3000

## 【飛行点検の種類】



### 【初度飛行点検】

施設が完成し、運用開始に先立って行う点検

### 【特別飛行点検】

施設に重大な変更や故障が発生し、修復等を行った後に運用を再開する場合に行う点検

### 【定期飛行点検】

運用中の施設に対して、定期的に行う点検

### 【設置位置調査】

施設を新設するにあたり、設置に適した位置を定めるために地上と機上器材を使用して行う調査

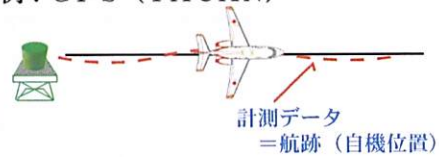
## 【飛行点検の方法】



### ＜自動飛行点検＞

GPS、CAMERA等を利用して自機位置を確認して行う点検

例：GPS (TACAN)



例：CAMERA (PAR、ILS)

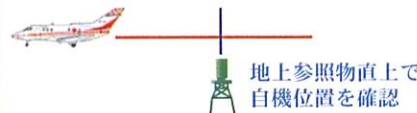
滑走路上のペイントを撮影  
→自機位置を確認



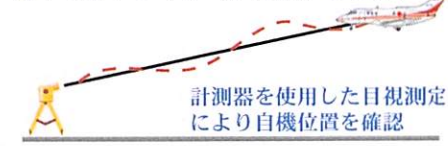
### ＜手動飛行点検＞

地上参照物及びセオドライトにより自機位置を確認して行う点検

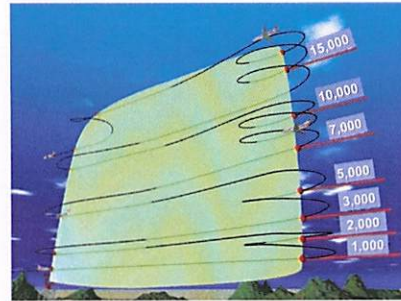
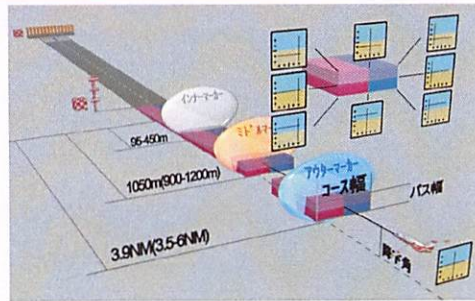
例：地上参照物 (TACAN)



例：セオドライト (PAR、ILS)



## 【飛行点検の一例】

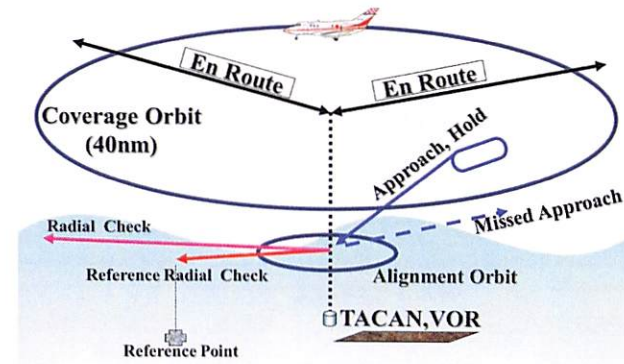


### ＜ILS＞

ILSのローライザーとグライドスロープの経路を飛行して、接地点からの距離と角度を示す信号を検出し、誤差の有無を測定します。

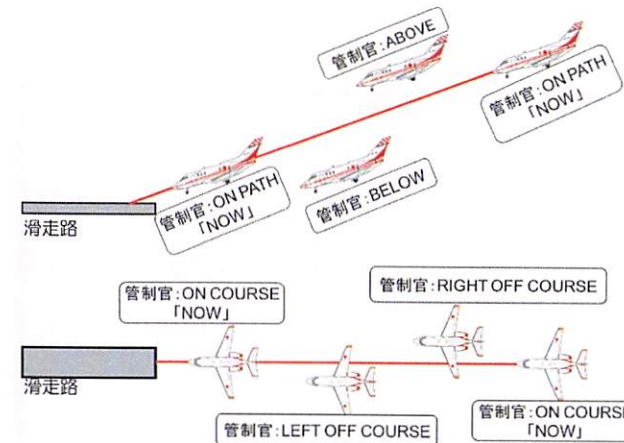
### ＜ASR＞

ASRのレーダー覆域(垂直方向)を飛行し精度等を判定します。



### ＜TACANとVOR＞

TACANとVORは共に電波情報により航空機に方向と距離を知らせる施設です。方向と距離の電波情報の誤差が無いかを点検します。



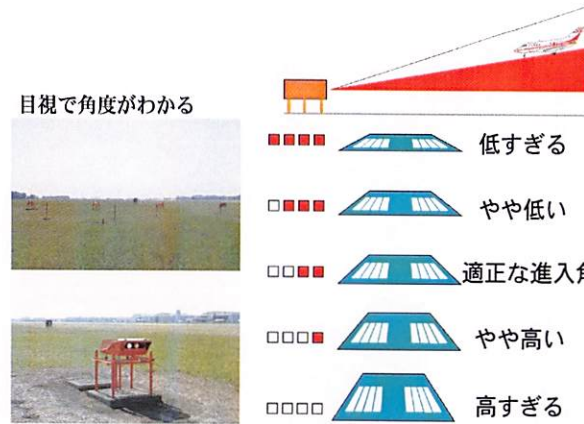
### ＜PAR＞

地上の管制官が精測進入レーダーを使用し、定められた降下角度と経路に沿うように航空機を誘導します。降下角度及び進入コースに誤差が無いかを点検します。

### ＜PAPI＞

PAPIは、4個の灯器により最終進入中の航空機に対し、色彩灯を利用して設定された目視進入角度を指示する装置です。

灯器毎に設定された角度で進入し、角度が正しいかどうか等について点検します。



目視で角度がわかる

- 低すぎる
- やや低い
- 適正な進入角
- やや高い
- 高すぎる

## 【飛行点検に携わる隊員】



### ＜ 飛行点検操縦士 ＞

通常の操縦技術に加えて、飛行点検を行うための様々な作業と特殊な飛行技術が必要とします。多数の航空機のみではなく、地表面や障害物等が存在する環境の中で長時間に亘り飛行点検を行い、総合的に合否を判断します。



### ＜ 機上整備員 ＞

操縦士を補佐し、地上においては飛行前後の各種点検、離着陸に関わる性能諸元データの算出を行います。飛行中においては各種システム及び計器全般をモニターし、故障発生時には冷静に状況を見極め、機長への飛行任務継続の可否を助言しています。



### ＜ 機上無線員(パネルオペレーター) ＞

飛行中の各種データの取得、解析や、地上でのセオドライトを用いた飛行点検機の誘導を担当しています。速度の速い航空機を用いて行うため、緻密な計測と解析を円滑に行い瞬時に判断する高い能力が求められます。



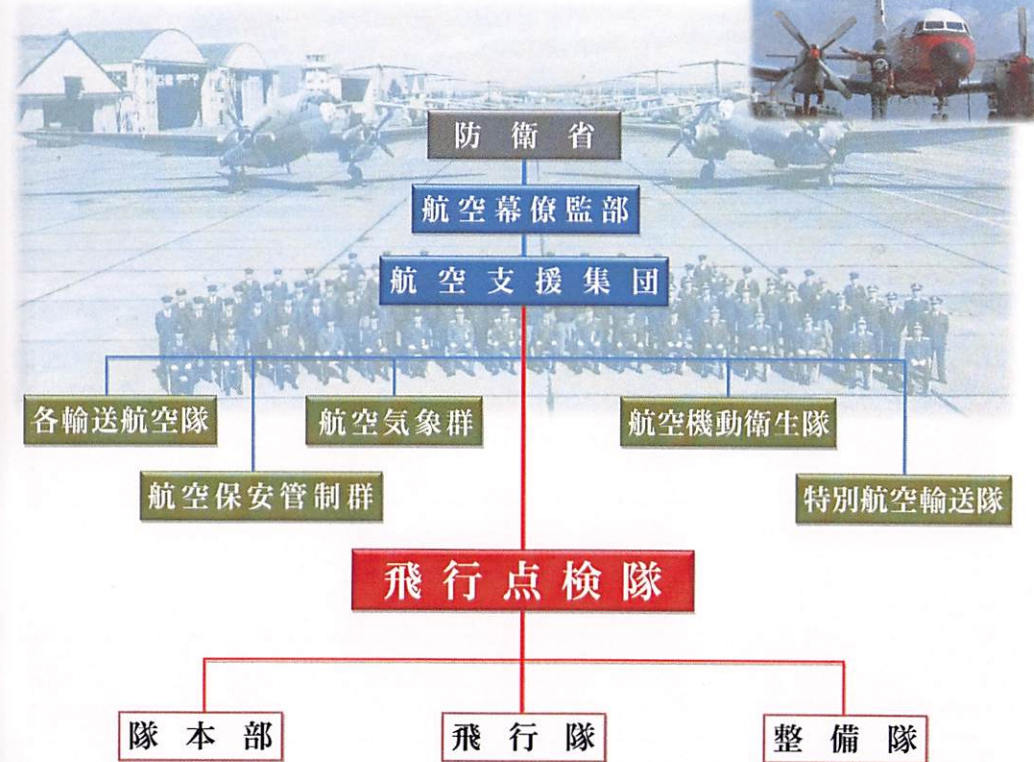
### ＜ 航空機、機上電子整備員 ＞

高い技術力をもって点検機及び点検装置の定期的な点検、整備を行って健全性を保証し、不具合発生時には、速やかに修理を行い、飛行点検任務の完遂に尽力しています。



## 飛行点検隊の沿革

- 1958年10月 府中基地において「航空保安管制群飛行点検隊」として編成  
美保基地においてC-46により飛行点検開始
- 1959年 6月 木更津に移駐
- 1962年10月 飛行点検責任を米軍から正式移管
- 1964年 2月 T-33Aによる高高度飛行点検開始
- 1968年 5月 入間基地に移駐
- 1971年 6月 YS-11FCによる飛行点検開始
- 1975年 6月 MU-2Jによる飛行点検開始
- 1992年 3月 YS-11FCによる自動飛行点検開始 (JAFIS-1搭載)
- 1993年 7月 U-125配備 (JAFIS-2搭載)
- 2008年 2月 YS-11FCに自動飛行点検装置 (AFIS-300) 搭載
- 2011年 2月 U-125に自動飛行点検装置 (AFIS-310) 搭載
- 2020年 2月 U-680A配備 (UNIFIS-3000搭載)

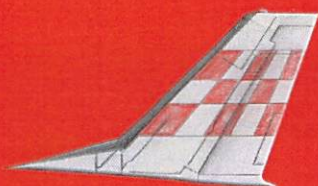




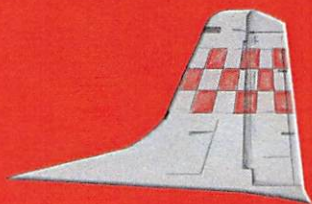
**C-46**



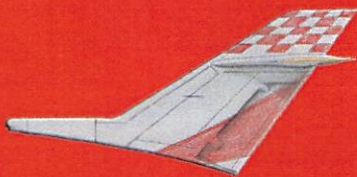
**T-33A**



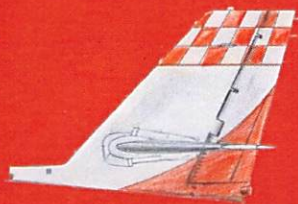
**MU-2J**



**YS-11FC**



**U-125**



**U-680A**

〒350-1324

埼玉県狭山市稲荷山2-3 航空自衛隊入間基地